

★ 朝の泣き別れ

「子育て日記+」その2

働く親にとって、子どもを一日預かってくれる保育園は本当にありがたい存在です。しかし、まだ右も左もわからぬ子どもを他人に預けるということには、一抹の不安があります。自分が見ていない一日を、子どもはいったいどのように過ごしているのだろうか、保育園に預けてしまってもよかったのか、ちゃんと育てていくのだろうかと心配になります。子どものことを一日中見ていられないとなれば、親は精一杯、子どもの変化を見るしかありません。次の文章は、私が娘を保育園に預け始めてから7カ月ぐらいたった頃に、娘の様子について書いたものです。

1989年2月

かおるは昨年の7月（3才2カ月）から祖師谷保育園に通い始めました。社会運動家として有名な賀川豊彦が創立した伝統ある保育園で、現在の園長さんは敷地内の教会の牧師さんです。

最初の1カ月は、かおるには苦痛であったようです。昼寝のタイミングが合わず、皆が寝静まってしまったところで、一人起きているのが何よりつらかったようです。始めは歌をうたっていたらしいのですが、他の子が起きてしまうからと止められてしまったようです。

「どうして保育園に行かなくちゃならないの」と泣き出さんばかりのかおるを自転車に乗せて、「今にきっと楽しくなるよ」「保育園に行ってもよかったって思うようになるからね」と言い聞かせながら保育園に送り届け、保母さんにかかえられて泣きわめくかおるをふりきるようにして帰る日が続きました。

8月に入って2週間の夏休みを取りました。保母さんたちが交代で休みを取るので、できることなら休んでほしいと園から言われている期間です。「休ませると後が大変だね」と他のお母さん方は言うのですが、気分転換も必要かと思い切って休ませてみました。その頃の私は、夫の仕事（小さな映画製作会社）の手伝いで、自宅でシナリオ書きなどをしていたので、休みは何とか取れる状態でした。

そして休み明け。どうなるかと思っていましたところ、かおるは全く泣かなくなりました。保母さんも私も拍子抜けという感じでした。休み中、私が仕事や耕平（7カ月）の世話で十分遊べなかったかおるは、バラエティに富んだ、そして1日フルに遊べる保育園の楽しさに気づいてきたのではないかと思います。昼寝のリズムがだんだん合ってきたのも良かったのかもしれない。

9月になると、迎えに行ってもすぐとんでこなくなりました。「もう少しあそんでいってもいい？」

10月、「もう少し遅くお迎えに来てもいいよ。」

11月のある日、迎えに行くと、仲良しのリサちゃんとランドセルをしょって行ったり来たりしているところでした。そして不服そうな顔で言いました。「もう少し遅く来てくれればいいのに。今学校ごっこやっていたのよ。」

そして今、かおるは「今日はタテワリなんだよ。お買い物のごっこやるんだって」などと、毎日何をやるか楽しみにして保育園に行っています。「タテワリ」というのは、年齢の異なる子どもたちがまざって活動する縦割り活動のことで、かおるの行く祖師谷保育園は、自主的な行動力と他を助ける心を育てるという方針から縦割り活動が多くなっています。劇遊びや楽器遊び、すもう大会や、かるた会をやったり、散歩にもいきます。年長の子が乳母車や荷車のバスの運転手や車掌さんになり、小さい子が切符を買ってお客さんになる乗り物ごっこもなかなか楽しそうです。

そうして遊ぶので、年長組の子も年少組の子もお互いに顔や名前を知っており、かおるも帰りぎわ、お姉

さんから「かおるちゃんバイバイ」などと声をかけられてうれしそうです。

また園には、スカート、カバン類、風呂敷、エプロン、組立てブロックなど、種類ごとに分類されて入った引出しがあって、おやつあとの時間、子どもたちはそこから思い思いのものを取り出して遊びます。迎に行くといつも、風呂敷をかぶったアンパンマンや仮面ライダー、何人もの白雪姫たちが部屋の中を右往左往しています。かおるもよく長いスカートを引きずって歩いています。

保育園に子どもを預けるということを、親の義務を怠っていると批判する人々も少なくありません。しかし、家にいたのでは、これだけ変化のある行動プログラムや、異なる年齢（0～6才）の友だち、障がいのある子（園に何人かいます）、保母さんや給食のおばさんたちといったいろいろな人間のいる社会生活を経験させてやることはできません。

かおるは母親べったりではなくなりました。急速な成長を見せています。そして何より、そこでの生活を楽しんでます。これはもう、何をか言わんやです。



入園まもなくのころ（左端がかおる）



つき組（3歳児クラス）さんのおやつと歯磨きするかおる



縦割りのイベント



入園数か月後、お迎え前の自由遊び



朝の泣き別れ、通い始めにはどの子にも多かれ少なかれあるといいます。長時間泣いている子、すぐ泣き止んでしまう子、泣き別れが長い期間続く子、すぐ泣かなくなってしまう子など様々です。これは、子どもの年齢、家庭での生活のしかたなど、いろいろなことが関係しているようです。

子の泣き別れは、安全なところから離されたということから起こる防衛本能だそうです。保育園では「朝の儀式」と呼んでいました。あって当たり前で、むしろ泣かない子の方が心配だと言われています。泣いているのは「お母さん好きだよ～、おうちの方がいいよ～」と言われていると考えればよいそうです。

ん？ じゃあ泣かなくなったということは・・・？

*「子育て日記^{プラス}十」

“十”は、子育て中の出来事について書き留めておいたことに、あとで一步引いて考えたり観察したりしたことを追加したという意味でつけたもの。核家族の我が家、子育て中は試行錯誤の毎日でした。しかし、今あらためて読み返してみると、実に愉快で楽しい日々だったか、そして何より自分自身の目を育てた年月だったと感じます。（やぐちみどり）